

2023年5月16日

命を守る学校に！

～ NHK「報告書“学校事故”」から～

先日（5/7）、NHKのテレビ番組で「学校事故」の特集が放映されました。日本の小・中・高校で、年間8,700件余りの事故が起き、何人もの子どもたちの命が失われ、あるいは、障がいを持つに至っているとのことです。以下にその概要を紹介します。

1. 学校事故の42%が授業や給食、休み時間に起こっています。

事例としては、小学校の低学年では給食です。うずら卵やミニトマト、白玉だんごなどをのどに詰まらせるという事故です。「小さく丸いもの」は、まずはしっかりと噛(か)む指導が大切です。高1ではサッカーゴールにかかわるもの。ゴールが倒れる事故などがあります。

また、中学生から高校生にかけては、「心臓系の突然死」が多いとのこと。「走ること」に関係する事故です。具体的な事例の紹介もありました。中3の柚野りんたろうさんは、バスケット部で活躍していました。彼は体育の授業で、体カテスト中に倒れました。20mの「シャトルラン」を時間内に何回走れるかのテストです。彼は53回（約1km）走ったところで倒れました。苦しくて両手を挙げたそうです。それがSOSのサインでした。彼のお母さんは「いつか、どこかで帰ってくるんじゃないか。」と思いつけていると語られました。こうした事故の発生日時の分析も紹介されました。突然死の506件の事故を月ごとに表してみると、ほとんどの月で40件前後です。しかし、5月だけは55件と、突出していました。りんたろうさんの事故も5月です。この結果を見たスポーツドクターは、次の2点に注目しました。

- ①5月は気温が大きく上昇するため、体の負担が大きい。
- ②中・高生は、体の成長が大きい時期であり、負担を考える必要がある。

さらに、持久走については、事故の3割が走り終わった直後に倒れているとのことです。

「窓からの転落事故」については、年間30人が亡くなり、44人が障がいを持つに至っているとのこと。例えば、小学校1年生が図書館の本棚の上にあがって窓際に座ったところ、後ろ向けに転落した事故があります。この場合は、窓際の本棚がポイントですが、他にも窓際のロッカーやカラーボックスなどがあったそうです。子どもは足場になるものがあると上がってしまうという特性を踏まえた対策が必要だと述べています。

また、こうした安全対策が学校の教職員だけに委ねられていることの問題も指摘していました。学校の安全点検は「学校ごとに」「学期ごとに」行うことが決められていますが、安全の専門家の関与・検証も大切だと言っていました。さらに、学校内での「情報共有」も重要です。事故が起きた堺市では、①窓側のものはすべて撤去することと、②建設段階での防止策をとっているとのこと。ただ、窓からの転落事故については、国と自治体間の連携の課題も紹介されました。事故があると国は自治体に注意喚起を促します。直接の指示はできないからです。対策をとれば防げる事故。両者の

連携も課題です。

2. 部活動中の事故は33%です。

栗岡りささんは、高校2年生の部活中の事故で、32歳となった今も意思疎通が難しく、食事は「胃ろう」です。2007年5月、テニス部のキャプテンとなったばかりの7月に倒れました。親元に届いたのは、学校作成の1枚の報告書のみ。詳細がわからず、親は「なぜ倒れたのかが知りたい。」と、搬送先の医師に聞きに行きました。そこで見えてきたのは「熱中症の疑い」でした。それは報告書にはありませんでした。5月、テニスコート内は夏の暑さ。中間テストが終わり、実に10日ぶりの練習でした。練習時間は3時間。いつもより長い時間だったとのこと。彼女が倒れたのは、練習開始から2時間半がたったところです。休み明けに、負荷の大きい練習をしたことが要因のひとつとされました。裁判は8年たって判決を迎え、熱中症回避の手立てを行わなかった学校の責任との判断でした。

アメリカのスポーツ事故の対策も紹介されていました。それによりますと、長期の休み明けの練習の危険性が言われ、特に、初日と2日目がポイントであるとも話されていました。通常、アメリカではその練習時間は2時間以内とされています。一般的に「熱中症」は倒れてから10分以内に対策を撮れば、100%救命できるとのことです。体温が40度を超えると内臓がダメージを受けるので、30分以内に38度台に下げるべきであるとのこと。そのため、多くの高校(?)では「アイスバス」(氷水の浴槽)がすぐ使えるように準備されているようです。

日本の部活中の死亡事故は、年間196件。そのうちの「突然死」は、年間133件。頭部外傷が40件だとのこと。連休明けや土日で活動しなかった月曜日などの練習は、他の日より「軽めに」「短時間で」が大切です。

最後は、事故の当事者や遺族の声で締めくくられていました。

「将来の子どもたちの夢をこわさないでほしい。」

「他人事と思わず、耳を傾けてほしい。」

「自分と同じような目に遭わないでほしい。」

これから、熱中症に注意をお願いします。

子どもたちはまだ暑さに慣れていません。今週後半は30度近い気温が予想されています。熱中症には十分注意をお願いします。特に、マスクは要注意です。積極的にはずす指導をお願いします。また、エアコンの積極的な使用も考えましょう。